

「太平洋麓九条の会」だより

事務局：須黒法律会計事務所

〒328-0027 栃木市今泉町 2-4-18 FAX0282-22-3757

電話連絡先 0282-22-7079(増田)

Eメール ohirasanroku9jo@yahoo.co.jp



215号
2025年6月27日発行

知ってほしい 教科書で“いま”何が起きているのかを・・・

ひとりの記者が見続けた“教育現場”に迫る危機



日本映画ペンクラブ[2022年文化映画ベスト1]!!!

2022年第65回J C J大賞!! 2022年第96回キネマ旬報文化映画ベストテン第4位受賞!!

「教育と愛国」上映会

齊加尚代監督は、毎日放送(MBS)で20年以上にわたって教育現場取材してきた。「教育と政治」の関係を見つめながら、最新の教育事情を記録した。教科書は、教育はいつだって誰のものなのか・・・。

8月30日(土) 13:30~15:30

栃木市市民交流センター・大交流室 500円(資料代)

くらげのパポちゃん

神戸市に「戦没した船と船員の資料館」があります。資料館の調査によると、アジア・太平洋戦争で、日本は南方の戦場に兵員や物資を多数の船を徴用して輸送、多くの船が米潜水艦などの攻撃で沈められ、7240隻の船、乗っていた兵員や船員など23万1600人が太平洋の海の底で眠っています。

かこさとしさんは、川崎

セツルメントの子ども会で紙芝居を描いていた頃、この事実を紙芝居に描いて私たちに知らせたいと企てたようです。加古さんの長女、鈴木万里さんが加古総合研究所に残された膨大な資料の中から、その原稿「くらげのパポちゃん」を発見、原稿は1955年には完成していたようです。

物語は、島の少年富吉くんが学校を終えて島から働きに出る、島の桟橋でお母さんが「お父さんに知らせることができたらねえ」とつぶやいた。お父さんの漁師甚吉さんはこの桟橋から戦争にいつて海の底に眠っていた。パポちゃんは海の底の甚吉さんに息子さんのことを教えてあげようと大海原を大冒険。加古さんはファンタジーの手法で書いています。そのファンタジーを絵にしたのが加古さんの孫、中島加名さん。今年の2月に講談社から出版されました。かこさとしさんの思いを、絵本を読んで語り継ぎましょう。

郡司俊雄(記)



祖父 かこさとし から
孫 中島加名 へ
受け継がれた平和への想い

話本の
未発見原稿が
ついに
絵本化

—くらげのパポちゃんが、少年の戦死した父を探して大海原へ—

育鵬社『新しい日本の歴史』

編集委員会座長 伊藤隆氏について



2024年に検定合格した育鵬社版中学校『新しい日本の歴史』編集委員会座長伊藤隆氏について調べてみた。映画『教育と愛国』のなかで、歴史から「学ぶ必要はない」と断言するのはなぜなのか、疑問を抱いたからだ。「ちゃんとした日本人を作ること」ともいい、その意味と根拠は何なのかを知りたいと考えたからでもあった。この教科書には従軍慰安婦や南京虐殺問題に関して「自虐史観克服」といった考え方を前面に打ち出す「新しい歴史教科書をつくる会」の流れがあり、保守系団体日本会議とも関係がある。

また、安倍政権とのつながりがあったことは自明の理である。2015年発行育鵬社歴史教科書を「いい教科書ができましたね」とほめちぎっていたことは報道されていた。

糸口を伊藤自身の著書『歴史と私』(中公新書 2015)に求めてみると、核となるものが見えてきた。

① 歴史から「学ぶ必要はない」

東京大学入試の答案を見ると、高校教師たちの教えが解答に反映されていて、内容は大半が「過激な左翼」だったとしか思えなかったと言う。「左翼的」と意識しないで「常識」になっていることに危機感をもった。このことが「新しい歴史教科書をつくる会」の活動につながった。歴史から「学ぶ必要はない」とは、意識しない左翼的な歴史学習を排除するといった意味合いが強い。つまり、「左翼的」な歴史学習指導から学ぶ必要はない、と言い換えられるだろう。

② ちゃんとした日本人を作ること

1995年東京大学藤岡信勝らが、「東京裁判史観批判」始める。戦勝国の立場に立った歴史観を問題視した。自虐史観と同じ意味。従軍慰安婦問題や南京虐殺問題などが典型例。史実に正面から向き合わない歴史修正主義と指摘されるように、2025年版では慰安婦につながる記述をしなかったり、南京虐殺を南京事件と表記して「日本軍によって軍民に多数の死傷者が出た」と記述。今日でも論争があることは併記するが、反日・自虐にならないように配慮している。なかった虐殺をあったとは書けない、という立場に徹する。

伊藤たちが問題視するごく一部の例しかここでは載せないが、ちゃんとした日本人を作るとはこの枠内と言えるだろう。日本人としての誇りを意図した反日・自虐ではない近視眼志向のレベルだろう。多様化多価値観の世界時代状況に全くそぐわない。「グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者」の育成(学習指導要領歴史的分野の目標)に合致しているのだろうか。

伊藤自身は学生時代バリバリの左翼だったことは知られている。60年安保闘争では、中心となって活動していた。本人は、「階級闘争ばかりで嫌気がさした」と言っている。180度方向性が変わるとは…一人の人生の機微と皮肉を感じる。筆者が興味をもつ原始時代の記述では、絵本に書くような表現があったが、考古学の専門家が担当してからは修正されている。このような歴史記述修正は、学術的に正しい。少しだけ褒めておく。

元井 茂(記)

2025 原水爆禁止国民平和大行進 「被爆80年核兵器禁止条約に参加する日本へ」

栃木市平和行進 7月9日(水) 栃木市市民交流センター 17:30~

スタンディング 7月9日(水) 市役所前 19日(土) コープ栃木店前 午後4時~

